資料４

新しい利用のあり方に関する合意形成に向けた取り組み状況

ワークショップ1　森からの魅力発信
大台ヶ原の自然の利用　～これまでとこれから～

◆日　　時　平成１５年９月２３日（火：祝日）　１３：００～１６：００

◆場　　所　上北山村　「大台ヶ原ビジターセンター」

◆参加者数　２６人（話題提供者及び事務局を除く）

◆話題内容

話題１「上北山村の歴史と大台ヶ原」
中岡孝之氏（上北山教育長）
○大台ヶ原を含めた上北山村の自然，文化を伝承，古文書などの歴史的資料をもとに分析し，人々と自然との関わり合いの変遷から上北山村の魅力について述べ，今後の大台ヶ原の自然と人々のありかたについての想いをコメント

話題２「森の魅力を伝える達っちゃんクラブの試み」
辻谷達雄氏（「山の学校」指導員）
○川上村の自然林の魅力を都市住民に伝えるなど質の高い自然体験の実践を行っている「山の学校・達ちゃんクラブ」の趣旨及び活動内容と「水源地のむら」川上村としての地域の取り組みを紹介。

話題３「パークボランティア活動のこれから」
山本勇三氏（大台ヶ原地区パークボランティア）
○大台ヶ原の自然を保護しつつ適正な利用を誘導するパークボランティアの活動の紹介と日頃のボランティア活動の中から生じる課題や喜び，外国との森林との自然の多様性の違いなどの比較を含めた大台ヶ原への想いと日常生活からの切り換えの必要性について提言。

話題４「佐渡島，豊島等にみる自然再生と地域づくりのこれから」
長嶋俊介氏（奈良女子大学教授）
○佐渡島のトキの保護とトキを呼び戻すための環境づくりや豊島の廃棄物問題に対しての NPO の取り組みから島の復興へ向けてなど島地域での自然の再生と地域づくりを一体的に取り組んでいる地域の事例紹介から大台ヶ原での自然の再生と地域づくりの今後について提案。

◆会場からの質問意見と主なやりとり

※大台ヶ原での利用者の無意識的な行動（モラルの低下等）に対して理想論ではなく，現実的にはどうしたらよいか。

・大台ヶ原も自然的な価値だけではなく，文化的な価値も持ってかかわっていく必要があるのではないか。
・ガラパゴス，南極のようにしっかりとした研修，講習などを受けたうえでの入山が必要ではないか。
・地域の人の生活と自然の関わりについて考えることがモラルを高めるヒントになるのでは。

※地元地域にとっての大台ヶ原とはどのようなものなのか。

・上北山の人々に木々，水などの恵みをもたらす母体となり，歴史や美しい景色を作り出してきた母なる山である。
・地域にとって大台ヶ原を含めて山々は生活の場である。

※大台ヶ原は生活の場でもあり，規制などが含まれる自然再生の場でもある。地域振興と自然再生事業が干渉，矛盾しない形でどこまで実現できるのか。

・マイカー規制などが行われた場合，駐車場や道の駅などで，地域の人と利用者が交流することで振興につながるものと考える。
・自然保護とは伐採するべき所は伐採し，守るべき所は守ることである。原生林の伐採と人工林の伐採は違うものであり，この地域は木を切って生活していることを理解していただきたい。理解してもらうためにも人工林，天然林の両方を歩いて地域の人が話をすることを行っている。
・地域住民は村の山の守り方を知っており，利用できる部分には植林を行っている。

※大台ヶ原を訪れた人に体験してもらいたいことは何か。

・それぞれの立場の人たちが尊重しあって利用の仕方をすすめていけたらと考える。
・訪れた人の感性の向上，自然との接し方について自らの五感で体験してもらいたい。

［文責：近畿地区自然保護事務所］

ワークショップ2　大台ヶ原の新しい利用に向けて

◆日　　時　平成１５年9月２３日（火：祝日）　１９：００～２１：００

◆場　　所　上北山村　上北山村温泉「ふれあいの郷かみきた」

◆参加者数　４１人（話題提供者及び事務局を除く）

◆話題内容

話題１「大台ヶ原の歴史から新しい利用を考える」
　田垣内進一氏（神習教大台ヶ原大教会教長）
○幼少から大台ヶ原で暮らしてきた実体験をもとに，大台ヶ原の過去から現在までの移り変わりから大台ヶ原の荒廃について感じたことを述べ，現状に対する危惧から今後の利用あり方ついての考えを紹介。

話題２「上北山村地域振興の新しい動きから利用を考える」
　平山孝一氏（ワーク２１会長），中谷守孝（ワーク２１副会長）
○上北山村で大台ケ原ヒルクライムなどの地域おこしを行っている「ワーク２１」としての地域活動と，地域の抱える課題と取り組み，上北山村の地域振興においては大台ヶ原は必要不可欠な存在であるとコメント。

話題３「山岳利用から新しい利用を考える」
　田村義彦氏（大台ヶ原・大峰の自然を守る会会長）
○登山者としての視点から，大台ヶ原の原生的自然を保護するためのマイカー規制などの入山規制など方策を「大台ヶ原山の自然保護と利用への提案」で提示，解説し，大台ヶ原の自然環境の保全に対してとるべき対策についてコメント。

話題４「観光産業から新しい利用を考える」
　小梶昌司氏（吉野熊野観光開発株式会社総務課長）
○観光業者の立場から大台ヶ原とその魅力をより高めるためのマイカー規制を含め，利用者のニーズを含めた新たな観光のあり方についてコメント

話題５「山づくりから新しい利用を考える」
　富室良城氏（上北山森林組合専務）
○上北山村の主要産業である林業の現状と大台ヶ原において道標や歩道整備などに林産品を　活用するなどの考えを述べ，地域産業が大台ヶ原へどのように寄与していくのかについて　コメント。

◆会場からの質問意見と主なやりとり

※事業範囲について

・大台ケ原の回復を望むのであれば大台ヶ原だけにこだわるのではなく大台ヶ原のふもとの地域，地元の山も考えて事業を進めるべきである。
・行政は山麓部の民有の人工林を自然林化する整備を進めるべきである。

※大台ヶ原の利用規制について

・利用者の量ではなく質（モラルなど）の改善がより重要である。利用の質を高めることが，地域振興にも役立つ。
・マイカー規制を行うのであれば上北山村に駐車場を作っていただきたい。
・マイカー規制は混雑期などに限定して試験的に開始して状況を見るべき。
・国立公園は国民の憩いの場であり，より多くの国民に訪れていただきたい。
・パークアンドライドが実現したら大台ヶ原の駐車場を地域のイベント広場にして地域と公園利用者の交流の場とするのも一つの考え。
・利用者規制はトライアンドエラーを繰り返して結論を出すべき。
・マイカー規制は大台ヶ原の保全のために必要不可欠なものである。今の大台ケ原の自然の荒廃は地球温暖化、酸性雨、利用者の増加など複合的な原因であり，シカの食害のみが原因で解決されるものではない。
・大台ヶ原の荒廃はシカや台風などの自然現象によるもので利用によるものではないのでは。

※情報の共有化，関係者の協力について

・利用の前提にあるのは大台ケ原の自然である。利用者は大台ヶ原の自然を利用している。その自然がどの様になっているのか現状を知ることが大切。
・大台ヶ原での事業を進めていくには国，県，地元と広く輪を広げて進めていき，関係の構築や合意には時間をかけていく必要がある。
・大台ヶ原を新しいワイズユースの山としていくためにも今の大台ヶ原の現状についての情報を開示し，共有することによって幅広い立場の人たちと話し合う必要がある。

［文責：近畿地区自然保護事務所］